

会 議 録

1 会議名

平成29年度第1回阿賀野市水道事業審議会

2 開催日時

平成29年10月24日（火） 午後1時30分から午後3時30分まで

3 開催場所

阿賀野市上下水道局 3階 大会議室

4 出席者（傍聴者を除く）、氏名（敬称略）

- ・ 委 員：小林龍幸（会長）、斎藤泰弘（副会長）、天野美三男、市川英敏、風間輝栄
佐藤利江子、鈴木美由紀、市川明子、長谷川正衛（9人出席 1人欠席）
- ・ 事務局：仁谷上下水道局長、木滑上水道次長、新保浄水場長
高橋庶務係長、菅原庶務主任（計6人）

5 議題（公開・非公開）

- （1）会長及び副会長の選任について （公開）
- （2）平成28年度水道事業会計決算状況報告 （公開）
- （3）放射性物質を含む浄水発生土の状況 （公開）

6 非公開の理由

なし

7 傍聴者の数

なし

8 発言の内容（○印は概要表示）

事務局（高橋庶務係長）

○平成29年度第1回阿賀野市水道事業審議会の開会を告げ、改選後、初めての審議会であるため、会長及び副会長が選任されるまでの間、事務局で進行をする。

○本審議会が規定により傍聴が可能であること、及び議事録は市のホームページで公開することなどの承諾を求める。

○配布資料の確認を行う。

- ・委員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・（事前配布）
- ・決算報告書・・・・・・・・・・・・・・（事前配布）
- ・決算の概要・・・・・・・・・・・・・・（事前配布）
- ・有収水量の実績・・・・・・・・・・・・【資料1】
- ・新水道ビジョンフォローアップ・・・・【資料2】
- ・主要な施策の成果報告・・・・・・・・【資料3】
- ・放射性物質を含む浄水発生土の状況・・・【資料4】
- ・用語解説・・・・・・・・・・・・・・【参 考】

○市長が欠席であるため、事務局（仁谷上下水道局長）から挨拶をお願いします。

事務局（仁谷上下水道局長）

○あいさつ。

事務局（高橋庶務係長）

○改選後初めての審議会であるため、事務局から委員を紹介する。

○次第に基づき、進行する。

3 議題（1）会長及び副会長の選任について

事務局（高橋庶務係長）

最初に「阿賀野市水道事業審議会会長及び副会長の選任について」でございますが、これにつきましては、規定により互選により選出することとされておりますが、皆さまいかがでございましょうか。

市川委員

事務局一任

事務局（高橋庶務係長）

市川委員の方から、事務局一任とのご意見がございましたが、事務局に一任ということでよろしいでしょうか。ご異議等ございませんでしょうか。

委員

【異議なしの声】

事務局（高橋庶務係長）

ご異議がないようですので、局長から事務局案をご提案申し上げさせていただきます。

事務局（仁谷上下水道局長）

それでは、事務局案を申し上げます。

この度、改選がございましたが、幸いなことに「識見を有する委員」の皆様全員から再任をいただいたところでございます。昨年度新水道ビジョンの策定にあたりましてご審議いただいた皆様からお残りいただき心強く思っております。また、任期中におかれましては、こ

の水道ビジョンの検証を是非お願いしたいと思っております。

このようなことから、長期間お願いすることとなり非常に恐縮ではございますが、改選前に引き続き、会長には小林委員、副会長には斎藤委員にお引き受けいただきたくお願い申し上げます。ご了承いただけますでしょうか。

小林委員・斎藤委員

○会長及び副会長を承諾する旨を告げる。

事務局（高橋庶務係長）

○会長に小林委員、副会長に斎藤委員が決定したことを告げる。

【会長・副会長の席に移動】

小林会長

安田地区の小林と申します。不慣れではありますが斎藤副会長ならびに皆様方のご協力をいただきまして、スムーズに進行できるようがんばりますので、よろしくお願いいたします。

斎藤副会長

前回に引き続き副会長を拝命いたしました斎藤でございます。教えていただくことばかり、勉強することばかりとは存じますが、よろしくお願いいたします。

小林会長

それでは次第によりまして進めてまいります。

事務局、議題（２）、（３）について順次説明願います。

質疑等については、説明後にお願いします。

それでは事務局お願いします。

3 議題（２）平成28年度水道事業会計決算状況報告

事務局（木滑上水道次長）

○ア 有収水量の実績について説明する。

事務局（高橋庶務係長）

○イ 決算概要について説明する。

事務局（高橋庶務係長）

○ウ 新水道ビジョンフォローアップについて説明する。

事務局（木滑上水道次長）

○エ 主要な施策の成果報告について説明する。

3 議題（３）放射性物質を含む浄水発生土の状況

事務局（新保浄水場長）

○放射性物質を含む浄水発生土の状況について説明する。

小林会長

○事務局からの説明が終了し、10分間の休憩に入ることを告げる。

【10分間の休憩】

小林会長

○事務局の説明に対して、質問や意見を諮る。

風間委員

私の方から、2点ほどお伺いしたいと思います。1点目は、水需要が右肩下がりで下がっている中で、経費節減に努めているので営業利益が出たということですが、具体的にどういう節減というか、経費の節約に努めたのか、先ずそこから説明いただければと思います。

事務局（仁谷上下水道局長）

大きいところが、料金調定システムの入替の関係でございます。入替の時期（リース満了）を迎え、入札で何者か選んで新規に契約する方法もございましたが、検討を進めていった結果、システム自体が再リースで使えるところもございまして、急遽方向転換して再リースとしました。これによって年間当たりかなりの額を費用縮減できたということがひとつありました。

その他としては、これは私どもの力ではないのですが、人事異動によって、人件費が1名分削減となりまして、その人件費というのが一人当たり数百万という大きな単位でございまして、積極的に行った方策ではないのですが、必然的に費用の縮減につながったというような効果がございました。

事務局（高橋庶務係長）

その他では、自然減ということで、支払利息になります。

事務局（仁谷上下水道局長）

（決算書の）記載の仕方が、私どもが積極的におこなったとする意味合いとなっておりますが、積極的におこなった部分としては、先程の料金調定システムの関係が大きかったところ です。

風間委員

いずれ、このまま行きますと値上げをしなければならない。以前にもお話をさせていただいたのですが、そういう努力をされて、節約をされて、出来るだけ値上げの時期を先送りするために、一生懸命内部努力されていることは私も見ておりますので理解していますが、この内部努力もいずれ限界にくると思います。ですから、いつも言うのですが、早め早めに、「私たちはこうゆう努力をしているのだけれど、最終的には皆さんにご負担を願わなければならない時期も来る。」ということも含めて、やはり、早い段階から市民への説明、わかりやすい説明をして頂きたいということでもあります。

それから、もう1点。資料3の有収率の向上対策で、平成32年までやりたいということですが、調査をするのに委託料はどのくらいかかるのか、逆に言えば、調査をせずにこのまま漏水させておいた方が良いというのはおかしいですが、大事故が起きないためにはしなければならぬでしょうけども、経費のかかり方と効果の兼ね合いはどうか、そのあたり

を教えていただければありがたい。

事務局（仁谷上下水道局長）

先ず、委託料といたしましては、当初、先程次長の方でも説明ありましたとおり、夜間の流量測定ということで、特殊な機器を使って阿賀野給水区（安田地区を除いた全域）をいくつかのブロックに分けて、何日かに及ぶ流量測定をおこないました。それが概ね7～800万円という金額でございました。その調査によりまして水原の中心地区の漏水量が一番多いだろうと予測が立てられましたので、その後は写真にあるように直接人が音聴によって漏水を確認するという方法で調査を進めました。この委託が750万円位の委託料をかけているところがございます。おっしゃるように、費用対効果というところが問題になるかと思えます。漏水が見つかることによって、その分水を作らなくてもいい量が増えるということに繋がるかと思えますが、それが全て売れた単価に掛けていくらになつたとなれば一番良いのですが、実はそうもいきません。水道の場合は固定費が高いということになりますので、作っても作らなくても掛かる経費はあまり変わらない。そうすると（有収率の）パーセントが上がっても直接費用の縮減に跳ね返ってくるというのは、おっしゃいましたとおり、あまりないところではございますが、後段おっしゃいましたように、実は放置しておくところの危険性ということがありますが、今回の調査で県道で一か所発見されました。分からなければ空洞が出来ているような場所もあったりするものですから、効率性を高めるための有収率アップというのも必要ですが、プラスそういった危険を回避するという意味でも続けているところがございます。

佐藤委員

同じく資料3のところですが、浄水施設機能維持事業というところで、さっきメモ書きとおっしゃった「浄水施設については、施設能力が過大となっていており、施設の統廃合などの効率化を図っていく必要がある。」と書いてあるのですが、この施設の統廃合というのは左下にあるような施設を統廃合して行くということでしょうか。

事務局（木滑上水道次長）

はい、そうです。左下に場外施設がありますが、こういったものを見直して行く。水を作る、そして作った水を配るために必要な施設は当然残して行きますが、現在、この100の施設能力に対して100の力で送っている状況ですので、施設利用率が50パーセント位になっています。ですからポンプの能力を半分にとすととか、そういったことで動力費を削減していくとか、今後考えていこうということでもあります。

もう一つ考えているのは、安田（給水区）が地下水、そして阿賀野給水区は阿賀野川の表流水を利用していますが、この地下水と表流水を今後どのようにうまく利用して水の運用を効率的におこなっていくかということ、今、コンサルに委託しながらこの先の方針を出していこうということで、取り組んでいるところがございます。

佐藤委員

確かに、空き家が増えたとか、人口減となった場合に、施設ばかりが大きく、過大になるのは問題だと思えますので、そういう計画というのにも必要になってくると思いました。

事務局（仁谷上下水道局長）

補足と言うわけではないのですが、新水道ビジョンの時にも説明させていただいたとおり

で、水道事業を持続していくという中で、どうしても効率化していく必要で、その中には、おいしい安田地区（給水区）の地下水を利用されている方には叱られるのかもしれないのですが、今現在安田（給水区）は安田（給水区）の水運用、それ以外の旧企業団のエリア（阿賀野給水区）は、そのエリアでの水運用、給水区ごと別々でおこなっております、管と管は連絡されているのですが、バルブで閉まっています、それぞれ独自の運用となっています。今後、水が売れない状況を鑑みた場合、如何に効率化していくか、一つの給水区として、一つの水運用というやりの方が、不要な施設が出てくるのではないかとということも併せて計画していこうかと思っているところでございます。

佐藤委員

もう1点、事業会計決算の概要の1ページ目のところに表があって、給水戸数が15,692とありますが、給水戸数と栓数というのは必ずしも一致しないみたいですけど、何が違うのですか。

事務局（高橋庶務係長）

給水戸数は、世帯数ということになります。年度末の時点で市民生活課の方から情報を得て記載したものでございます。給水栓数というのは、我々が料金を計算する全ての戸数になります。企業などもございますし、全ての件数ということになります。

事務局（仁谷上下水道局長）

ハウスのメーターとか、そういったものもあります。

佐藤委員

その中で、給水栓数17,331というのが、平成28年度と27年度がたまたま同じだったのは、たまたま同じだったのでしょうか。

事務局（高橋庶務係長）

その通りです。ただし、メーターの総数は同じですが、口径ごとでは差が出てきています。

風間委員

関連した質問になりますが、安田地区（給水区）は地下水、こちらの方（阿賀野給水区）は大室の浄水場の水になりますが、原価というのはどちらの方が安いのですか。

事務局（木滑上水道次長）

単純計算ですが、若干安田（給水区）の方が安いですが、ただし、安田（給水区）の方は地下水を汲み上げて消毒して配水池に送っているのみですが、（大室）浄水場の方は様々な薬品を使って水を作っていますので非常にコストがかかっているような感覚があると思いますが、その割には安いと思われれます。比較すると安田（給水区）の方は地下30メートルの所のポンプで陸上まで汲み上げるのに動力費がかかります。そこで消毒をして、山の上の58メートルの高さの配水池までポンプで上げるので、二重に電力が掛ります。結構、動力費が掛ってきますので、大室浄水場の方の単価と比較しますと、安田（給水区）の方が若干ですけど安いということになります。

小林会長

水がだんだんいらなくなっているという中で、それでも私たち、おいしい水を飲みたいということで、ずいぶんおいしい水の方に力を入れている自治体もあろうかと思いますが、阿賀野市としては、そういったことに取り組んでいるのか、努力しているのかどうか、アイ

ディアがあると思うがいかがでしょうか。

事務局（仁谷上下水道局長）

おっしゃるように、いろいろな自治体、特に元の水、原水が悪い自治体、特に大阪とか東京とかでは非常に努力されて、浄水処理にコストを掛けて、おいしい水になったと感じているし、報道もされています。私どもは幸いにして、先ほどの話しにもありましたとおり、良質な安田地区の渡場の地下水と、阿賀野川の表流水についても東京都等の水源と違って、良質な部類に入るのかなと思っておりますので、今のところそう費用を掛けなくても、みなさんからおいしくないというような評判を聞いたことがないので、特段努力をしなくてもおいしい水を提供できているのかなと実は感じているところでございます。

事務局（木滑上水道次長）

付け加えさせてもらいますけど、先程、施設の効率化というような話しも出ておりましたが、年々配る水の量も減ってきておりますので、当然水道管の中の水が滞留する度合いがどんどん大きくなっているということが考えられるのですが、そうした場合、これまでは家庭まで2～3時間程度で届いて、割と新鮮な水を飲んでいました。それに比べて今は倍の6～7時間かかって来ているものを飲んでいて、そういった差、現象というのはあると思います。ですから、私ども努力ということではないのですが、末端の水質を確保するために、夏場になりますけど、そういった停滞を起こしている管路とか、大きい幹線の管路といったものを新しい水に入れ替えるような排水作業といいますけど、そういった水を排水して新鮮な水に変えてあげるといようなことは、年に一度やっております。

小林会長

もう1点よろしいですか。人口減少に伴って料金の収入が減少しているということで、水道局は水道局なりの努力はするでしょうけど、本庁の方と人口対策について論じるなど、そういった働きかけもしていただきたいと思っています。

事務局（仁谷上下水道局長）

全くそのとおりでございます。我が市も当然ですが、どこの市町村も最大のテーマが人口減少になるかと思っておりますので、阿賀野市も力を入れていろんな政策を打っているところでございますので、水道事業からもなんとかそういった意見を届けて協力出来るものは市長部局とも協力しながら対策に一部力を貸せればという姿勢で臨みたいと思っております。

斎藤副会長

前も申し上げましたが、今の本庁に働きかけてという話しと一緒になると思いますが、法人税の減免なども加味して積極的に水を使う工場の誘致、これを折角先生方もいらっしゃるので、阿賀野市だと何の委員会になるのか分からないですけども、そういう誘致の働きかけをお願いできればというのと、何年か前にも話しが出たと思うのですが、今日も次長から災害の時、改修して対応するというお話が出たと思うのですが、近隣の水道局、新発田市とか新潟市とか隣接している管を繋いで急場の給水をしてもらうだとか、或いは先ほどコンサルに頼んで1系統で運用するという話しがあったのですが、急場時には復旧出来るルートも。当然、管内で劣化してくるのもあるかと思うのですが、メンテナンスをしながら、万が一水が無くなると私たち生活が出来ないので、それらも考えていただきたい。当然、節約も大変だとは思いますが、供給をするというのを第一に考えて進めていただければ

ありがたいというのが要望になります。あと、決算を見させて頂いて償却等減耗費でいただいた毎年6億位見ているのですか。

事務局（高橋庶務係長）

だいたいそうです。減価償却については、概ね計算できますので。資産減耗につきましては資産の廃止に伴って発生します。

齋藤副会長

除却費と棚卸しの減耗ですか。

事務局（高橋庶務係長）

棚卸資産については、ほとんど廃止ありませんので、水道管路の布設替などによって廃止されたものについて、その都度計上するということになります。

齋藤副会長

内部留保が8億円位あるということで、非常に素晴らしい決算だなと。人口と有収水量の減も平均で1.1%と1.2%と年々それ位落ちていますが、是非ハンドリングでもうちよつとがんばっていただけたらなと、たぶん可能だろうなと、範疇としては思っているの、よろしくをお願いします。

事務局（仁谷上下水道局長）

最初のご要望3点につきまして、誘致については、人口減対策と同じく担当部局含めて我々の方からも要望、協力していきたいと思います。緊急時の際の、他の自治体との連携ということで、これも今ご紹介したとおり新発田市さんと月岡方面、それから豊浦方面、その2か所を連結する予定で協定は結び終わっております。昨年度結び終わりましたので、実工事を平成31年度に2か所連結する予定で今いろいろ検討を進めているところでございます。

それから、緊急時に如何に供給を止めないで水を送れるかということでございますが、管路の布設替え、特に百何十年もかかるというような試算されておりますがそれでもその中から、ただ単純に古くなったから入れ替えるということばかりではなくて、重要な管路を優先的にやるというようなこととか、様々目的に応じた選定をしながら優先順位を付けて、なるべく副会長さんがおっしゃるような方向で早く進捗できるような形で進めていきたいと思っております。

齋藤副会長

これって（ペット水）、一般の人のために備蓄とかしているのですか。

事務局（仁谷上下水道局長）

一応、市の方でも備蓄している水はありますが、我々（上下水道局）は毎年1万本作っております。第一目的はあくまでも水道事業のPRで、水道利用を促進するという意味合いが一番を考えております。しかしながら、1万本のうち、市の様々な事業に提供するというのが主なのですが、残る部分もございまして、それを避難所に備蓄するとか、そういった方法で実はおこないたいということで担当部局の方と話しをした経緯もあるのですが、現実としてそこまで行っていなのですが、我々の方（上下水道局）で備蓄は、一応はさせて頂いております。半分まではいきませんが、我々もなかなかいざというときに人手が実は足りなくてすぐに水を配給出来るほどの人的な余力がないところもありますので、あらかじめこういったものを各施設、主要な施設に備蓄させていただければ少なくともそれまでの間は

対応できるのかなと考えておりますので、進めたいなと思っております。

小林会長

職員の高齢化が進んでいるということを一般的に言われておりますけれども、皆さんお若いですから、まだまだこれから頑張れるんですけど。そういったことで、大量退職されるのか、そうすると現場の技術が疎かになりがちですけれども、その辺をちゃんと継承されるようなシステムの構築といいますか、それは大丈夫でしょうか。

事務局（仁谷上下水道局長）

水道事業の方も、人事異動等になりますと、全体的に市長部局の方で配置されるというような状況で、今のところは旧水道企業団で採用された職員がそれなりに配置をされておりますので、今のところはまだよろしいのですが、会長がおっしゃるようこれから先考えると非常に心配なところがあります。しばらくの間は、退職しても再任用という制度もありますので、出来るだけ水道事業の職員で退職された方には水道事業で後進の指導に当たっていただくことも、人事の方に要求していきたいと考えておりますが、人員的には毎年、1人程度ずつ減らされているのが実態でありますので、なかなかそういった余力も出るかどうかというのがありますが、技術の継承というのは、現場の技術ばかりじゃなくて、会計とかさまざまなものが技術の継承に入るかと思っておりますので、そういったものが大事だと思っておりますので、考えていかなければと思っております。

小林会長

○その他、意見・質問はないか諮り、質問等がないため、次第の4その他に関して議題の有無を確認する。

○事務局からは特になし。

小林会長

それでは、本日の次第の全てが終了いたしました。

いつも申し上げていることですが、決算状況からしますと有収水量の減少に歯止めがかからないような状況であります。そのことは料金収入の減少という厳しいものであります。そういった状況下であっても、事務局には是非、策定されました新水道ビジョンの目標を達成しまして、財政比率の向上で黒字体制を維持できるよう経営努力をお願いするものであります。

以上で本日の審議は終了いたします。慎重審議ありがとうございました。

○審議会の閉会を宣言し終了する。

9 問い合わせ先

上下水道局 庶務係

TEL : 0250-62-2159

E-mail : suidol11@cocoa.ocn.ne.jp